蕨 広報WARABI 12

2013/平成25年

わらび・750

● 平成25年12月１日発行 ／ 発行所・蕨市役所
● http://www.city.warabi.saitama.jp/

● 蕨市の面積　5.10km²
● 11月１日現在人口：72,244人 前月比 ＋63人
男 36,729人　女 35,515人
世帯数：35,707
人口密度：14,165人／km²

沿道からの声に応える、今年度のミス織姫・中岡侑子さん

広報蕨　No.750
平成25年12月号

目次－Contents－

02　特集：機織りと私
14　写真で振り返る
　　わらびこの一年
16　リポートそこが知りたい
16　蕨いま　むかし
17　まちの話題
18　親と子のニュースの小窓
19　ほっと・エッセイ
19　わが家のアイドル
19　子どもクラブ
20　輝いてます　ひと
20　キラリ!! みんなの力

～表紙の写真～

人と人をつないで30回目
宿場まつりが盛大に開催

宿場町として栄えた歴史を今に伝える「中仙道蕨宿宿場まつり」が、11月３日、中山道本町通りで開かれ、16万人の人出でにぎわいました。ミス織姫を中心に練り歩く「織姫道中大行列」や災害協定を結ぶ静岡県湖西（こさい）市の大太鼓など、多くの催しで彩られた今年の宿場まつり。地域の皆さんの手によって30回目を迎えました。

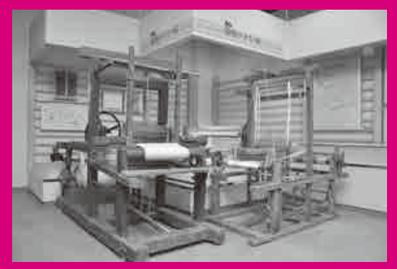
特集
機織りと私

歴史を紡ぐ力が未来を織り成す

最盛期には、まちの機屋から「カタカタ、トントン」という機を織る規則正しい音がこだましていました

かつて、このまちに鳴り響いていた音
「カタカタ、トントン」

江戸から昭和にかけて、織物の生産地として名をはせた蕨。
その産業に多くの人が関わり、まちの経済の礎を築いてきました。
しかし、時代とともにまちは変容を遂げ、いつしか、音は鳴りを潜めるように。
そうしたなかでも、今も伝統的産業に情熱を傾ける人々、
誇れるまちの歴史を伝えたいと奮闘する人々がいます。
今月の特集は、「機織りと私」。
耳を澄ませば心のなかで、あの音が聞こえてくるのではないでしょうか。



歴史民俗資料館に展示してある高機

カタカタ、トントンもう聞こえない でも、みんなの心に響かせたい

住宅都市として7万人以上が暮らす蕨。なかには織物のまちとして栄えたことを知らない人もいます。一方で、まちの歴史を後世に残したいと取り組む姿もあります。

▲平成22年に改築され、装いも新たになった機神社
◀今年も多くの人が集い行われた機まつり式典（８月７日）

塚越稲荷神社

塚越３丁目の塚越稲荷神社。境内にある機神社は蕨の歴史を語り継ぐ上で欠かすことのできない史跡です。ここには蕨の機織りの先覚者で「はた神様」と呼ばれる２代目髙橋新五郎が祭られているからです。

文政９年（１８２６）８月７日、信仰していた関東大権現（徳川家康）の夢のお告げで機屋を始めた新五郎。考案した青縞が江戸で評判となり、蕨の織物業が発展する礎を築きました。その功績から妻・いせ、関東大権現とともに祭られ、地域の人々に信仰されてきました。

そしていつの頃からか、８月７日に織物業者が商売の繁栄を祈る式典を開くようになりました。それが今の「機まつり」の起源となっています。

今年も厳かに執り行われた式典。そのなかに子どもたちの姿もありました。地域の伝統行事を通して、まちの歴史を知ってもらいたいと、機神社奉賛会会長で新五郎の子孫でもある、髙橋慶助さん（４ページ写真）が子ども会に声を掛けたのです。髙橋家も今は織物業を営んでいませんが、織物の歴史や伝統を伝えたいという思いは変わりません。３年前には機神社を改築。織物の歴史を伝えるシンボルは新たな装いで親しまれています。「式典が世代を超えた交流の場にもなってほしいですね。そして、今後も蕨の織物の歴史を伝えていきたい」と語る髙橋さん。その言葉には地域の誇りを自分たちの手で引き継ぎ、次代へ託そうという決意が表れています。

子どもや保護者20人が式典に参加

2代目髙橋新五郎の自画像

髙橋家ご子孫
髙橋 慶助さん

77歳。塚越３丁目。塚越稲荷神社奉賛会会長、機神社奉賛会会長。髙橋新五郎の子孫に当たる

行事を通して誇れる伝統を次世代へ。

まちの歴史を知ることができ、また、夏休みの自由研究のよい題材にもなるのではと思い、初めて神社の飾りつけから式典の出席まで子ども会に声を掛けました。核家族化が進み、歴史や伝統を継承していく機会が少なくなりましたが行事を通して若い世代にお伝えしていきたいです。

一方、織物のまちを支えてきた人々の声を残したいと取り組む研究家もいます。潮地ルミさん（左写真）です。潮地さんは昭和24年、蕨に住み始めたのを機に織物の研究を開始。以来市史や県史も含め、多くの著書を執筆してきました。その代表作が「はたおりの町わらび」。関係者44人に話を聞き、『広報蕨』に掲載された内容をまとめたものです。丹念な取材を基に書かれた記事から、織物に関わった人々の自信や誇り、そして苦労が伝わってきます。地道な取材と研究の原動力は、「協力者への感謝の気持ちと、なにより多くの人の知恵と情熱で今の蕨が出来たことを伝えたかった」と潮地さん。「これからも蕨の歴史に興味を持ち続けたい」とほほえみました。

地域の歴史を行事でつなぐ髙橋さん、研究で伝える潮地さん。機織りの音は聞こえなくても、先人たちが築いた伝統を継承していく志はついえることがありません。

歴史研究家
潮地 ルミさん

88歳。南町２丁目。元教師。中学校で教鞭を執る傍ら織物や市史、県史などを研究。昭和58年に埼玉県文化ともしび賞、平成４年に蕨市けやき文化賞を受賞

機織りの取材を通して蕨にずっと住もうと決めましたね。

住む土地のことを学ぶと、その土地の人と知り合い、仲よくなれるからと始めた織物の研究。織物業は常に時代の波にさらされてきましたが、創意工夫を重ね、現在の蕨の繁栄につながっていることを皆さんに知っていただきたいです。お話を聞かせてくださったかたはどなたも温かみがありました。そうした触れ合いから、私も蕨をふるさとだと感じるようになりました。

わらび文庫
「はたおりの町 わらび」

昭和53年から57年まで『広報蕨』で掲載したコラムをＡ６判にまとめ、平成６年に発行。**定価**＝500円 **販売**＝市民活動推進室または歴史民俗資料館

取材の成果がこの一冊に

Check!

わらび文庫のほかにも、織物の歴史を知ることができる施設や資料などが身近にあります

わらび郷土かるた

まちの歴史や文化を楽しく学べる教材。織物に関する絵札もあり、毎年小学生のかるた大会で使われています

図書館

南町１丁目。２階郷土資料室には織物やまちの歴史に関する本を所蔵しています

歴史民俗資料館分館

中央５丁目。明治時代、買継商（織物を織る機屋と問屋の仲立ち）をしていた家を公開。店舗部分には当時の電話があり歴史的な面影が感じられます

歴史民俗資料館

中央５丁目。「織物のまち・蕨」のコーナーがあり、当時の高機など、織物に使う機械や道具類が展示されています

～蕨の織物の歴史～

江戸末期から綿織物業が盛んになり、文政年間（1818～1830）、塚越村の２代目髙橋新五郎は青縞を織って売り出しました。その後髙橋家は２本の洋糸を絡ませて布を作る「ニタ子織」を始めたところ評判となり、蕨の織物は飛躍的に発展。明治に入ると規格化された双子織は商人の着物として販売されました。大正以降は、織物の種類も増えましたが、日中戦争の頃から経営が厳しくなりました。戦後は好景気の時期もありましたが、安価な外国製品などに押され、しだいに衰退していきました。

双子織の着物

カタカタ、トントンもう聞こえない でも、みんなを笑顔にできる

8月。まち中にたくさんの楽しそうな笑顔が広がるお祭りがあります。そう、蕨の夏を彩る「機まつり」です。織物の伝統を残す行事には、笑顔の数だけまちを思う心が詰まっています。

浴衣姿の見物客も多く、お祭りに彩りを添えます

毎年盛大に開かれる、「機まつり」。蕨駅西口駅前通りに並ぶ七夕飾りが見物客の目を楽しませてくれます。機まつりが始まったのは昭和26年。当時の高橋庄次郎町長や織物組合、商工会議所が織物で栄えた歴史を伝えるとともに、町の商工業の発展を願い開きました。その後、七夕装飾コンクールも加わり、夏の風物詩となっています。

今年も8月2日から行われた機まつり。「やっと人出が戻りました」と安堵の表情で話すのは実行委員長・明石哲平さん（7ページ写真）。震災以降、縮小していたお祭りを回復させようと実行委員会では、準備に奔走してきました。そのかいあって人出は増え、26万人が訪れました。「皆さんの笑顔が見たい、それに尽きます」と全委員の思いを代弁する明石さん。自身も手作りの装飾を出展するほどの祭り好きです。その魅力を知ってもらいたいと仲間とともに全小学校に呼びかけを続け、今では児童たちの七夕飾りが催しをより華やかにしています。更に今年から保育園に笹を準備。かわいい文字の短冊が並びました。こうした活動が伝統的な行事を身近にし、家族や地域の絆を深めるきっかけにもなっています。既に来年の企画を練っている明石さん。「みんな一生懸命。祭りでまちをもっと元気にしたい」と話します。

機まつりの初開催から63年。まちの発展を願う人々の情熱はしっかりと受け継がれ、毎年夏にたくさんの笑顔の花を咲かせています。

写真で振り返る機まつり

第3回機まつり

▲昭和28年 花自動車パレードの様子

第9回機まつり

▲昭和34年 市制施行後、初めての開催

第29回機まつり

▲昭和54年 市制20周年を記念した装飾

地域への思いが詰まった機まつり。皆さんの楽しい思い出になるといいですね。

第63回わらび機まつり
実行委員会委員長
明石（あかし） 哲平（てっぺい）さん

機まつりが楽しい思い出になるよう、実行委員会では、半年前から議論を重ねてきました。七夕飾りの出展依頼では、祭りを活気づけたいと各商店から快諾をいただきました。沿道が華やかに彩られたのは、皆さんのまちを思う気持ちがあったからです。また、児童たちの飾りも大好評で、親子連れの姿もよく目にしました。祭りを通して、若い世代がまちの歴史や行事に関心を持ってくれたら幸いです。

第63回機まつり（8月2日～5日）

今年も華やかに
4日間で26万人

市民参加の手おどり大行進

願い事を書いた短冊を飾る子どもたち

ステージ発表では練習の成果をじゅうぶんに披露

友達との楽しいひととき。たくさんの思い出も

Check! 楽しみ方いっぱい 機まつり ― 市民の皆さんに聞きました ―

家族で楽しんでいます

子どもの頃から、機まつりは夏の一大イベントでした。3人の娘の父親になった今では、七夕飾りの前での記念撮影が我が家の恒例になっています。ずっと親しんできたお祭りを子どもと楽しめるのはうれしいですね。

櫻井（さくらい） 勉（つとむ）さん
南町4丁目・34歳

まちを知るきっかけに

友達と作った七夕飾りをたくさんの人に見てもらうことができました。大きな飾りを作るのはとても大変だったけど、みんなと協力したり機織りの歴史を勉強できたりしてよかったです。もっと蕨のことが知りたいな。

金田（かなだ） 美音（みいん）さん
南町4丁目・8歳

機まつりで母国を思う

華やかな飾りのなか、息子と金魚すくいをしたり、綿あめを買ったりと楽しんだ機まつり。ふるさと、広州（中国）の旧正月を思い出しました。こうした行事によって、地域の伝統を守っていくのはたいせつですね。

曾（そう） 嶸嶸（えいえい）さん
中央6丁目・35歳

写真に残す夏の風物詩

毎年、お祭りの様子を写真に収めて、「機まつり写真コンクール」に応募しています。ファインダー越しだと、お祭りの雰囲気もいつもと少し違って見えるものです。今年は努力賞でしたが、来年もまた挑戦したいですね。

野崎（のざき） 清蔵（せいぞう）さん
中央1丁目・78歳

活動を通じて、これからも織物の魅力を皆さんに届けたいですね。

作品で魅力を発信

織作家
藤崎 仁子さん

「最近は、竹で作った糸を使ったり、土で色を染めたりと、自然が生み出す美しさを楽しんでいます」と語るのは、織作家の藤崎仁子さん（65歳・中央１丁目）です。30年以上にわたって制作活動を続けてきた藤崎さんの作品は、自由に素材を組み合わせることによってその可能性を無限に広げています。例えば、使用済みのコーヒーフィルターを細く裁断し、糸の代わりにして作品を織りあげるなど、独自の世界観を築いています。

こうした作品の発表の場として、全国各地の展示会に出展している藤崎さんは、ここ蕨でも歴史民俗資料館で個展を開催しています。更に、同館や市内の公民館では、約20年前から小学生対象の織物教室の講師を務めています。個展や講座などを通して、藤崎さんが伝え続けてきたこと。それは、織物の楽しさ、そして、蕨がかつて織物のまちだったという歴史のたいせつさです。このような思いは、このまちに少しずつ、でも確実に根付いてきています。

この日の教室では、布製品を裂いて糸の代わりにする、裂織を体験

いつでも楽しんでもらえるように、毎回新しい織り方や素材を提案

色とりどりの洋服が並ぶ店内の一角に、趣のある縞（しま）模様の商品が陳列されています。ここ中央３丁目のブティックでは、双子織を使った洋服や小物が制作・販売されています。

蕨育ちの店主・川村みつ子さん（69歳）が初めて双子織に触れたのは７年ほど前のことでした。手にした布地は２種類で、一つはさらっと素朴な感触、もう一つは綿とは思えない艶やかな肌触り。「正に一目ぼれでした。これを使って何か作りたい」と、強い衝動に駆られたそうです。初めに洋服を制作すると、それが話題を呼び、「小物も作ってよ」といった要望が届くように。そして現在、帽子やブックカバーなど、その種類は15以上に上っています。

そんな川村さんが双子織を使い続けるのにはもう一つ理由があります。それはふるさとの誇りを伝え、広めていきたいから。「この縞模様の布地のファンを増やしたいんです」。そう語る川村さんの製品には、双子織と蕨への思いが詰まっています。

双子織製品を販売

クチュール　カワムラ
川村 みつ子さん

双子織が一人でも多くの人の手に触れてほしい。それが願いです。

「お客様に喜んでほしいんです」と、熱心にデザインを練る川村さん

中央３丁目の店舗で、娘さんといっしょに制作・販売をしています

カタカタ、トントンもう聞こえない
でも、小さな明かりは灯したい

最盛期、まちに１００戸以上あった機屋。16年前、北町にあった工場の閉鎖により、市内から織物の生産が姿を消しました。しかしその世界に魅了され、今も情熱を傾けている人がいます。８、９ページではそれぞれの取り組みを通じて、まちの誇りに光を当てている３人をご紹介します。

今も続く織物業

徳丸織物
徳丸 平太郎（とくまる へいたろう）さん

連綿と続く織物の伝統。姿を変えても絶やしたくはない。

徳丸織物は、今もなお、市内で織物のまちの伝統を紡ぎ続ける場所の一つです。「蕨の地場産業を絶やすわけにはいかない」。そう語るのは徳丸平太郎さん（66歳・北町３丁目）です。

明治以降、機屋や買継商を営んできた徳丸家。上質な双子織を商うことで定評があり、毛織物や先進技術の導入など産業の発展に寄与してきました。その後、時代の変遷とともに家業は姿を変え、現在は市内唯一の撚糸（ねんし）会社として錦町２丁目に工場を構えています。年間の生産量は約40㌧。得意先から注文を受け、製紙用フェルトの原糸を出荷しています。また、「双子織を再び蕨の名産に」と、中山道の商店の有志からなるまちづくり会社の代表として、催しでのグッズ販売やファッションショーの開催など多彩な活動を行っています。「織物に携わる者として、伝統を残す責任と幸せを感じています」と、徳丸さん。地場産業を守り広める人がここにもいます。

市内で最後まで稼働していた徳丸家の織物工場（北町３丁目）

撚糸機で4本の糸を1本に加工。蒸すなどの工程を経て出荷されます

工場では熟練された７人の従業員の皆さんが日々汗を流しています

カタカタ、トントン聞こえるよ それは小さな小さな音だけど

市民活動団体「はたごっこ」

平成22年。下蕨地区の催しで、ある体験教室に人だかりができていました。長年機屋をしていた吉田金造さん（11ページ写真）が蕨の伝統に触れてもらおうと機織り体験を開いていたのです。

初めは遠くで見ていた人も織機の優しい音に誘われ、感触を楽しんでいました。川野耕三さん（11ページ写真）もその一人。織物で栄えた面影が見られない現状を憂いていた川野さん。吉田さんの姿に共感し、自らの思いをぶつけました。すぐに意気投合した2人は講座を企画。翌春の織物講座には50人が参加し、関心の高さに手ごたえを感じました。

そして24年春。受講生ら20人が集い、機織りの活動団体が生まれました。その名は「はたごっこ」。「機織り」と動作のまね、「ごっこ」をかけた愛らしい響きの名前です。

宿場まつりでの体験教室に向け、入念な打ち合わせをするはたごっこの皆さん（歴史民俗資料館分館）

歴史民俗資料館分館（中央５丁目）

◀各自で綿花の種を植えて、秋の収穫に向け育てていました

◀タマネギやウメ、サクラなどを使い糸を草木染めにしました

▲会員どうしで教え合いながら活動しています

◀▼困難な糸通しも楽しみながら

伝えたい蕨の織物文化

はたごっこ
川野 耕三（かわの こうぞう）さん

はたごっこを結成して、1年半。まだまだ未熟な私たちですが、一人でも多くの人に蕨の誇れる織物の文化や歴史を知っていただきたいと活動に励んでいます。今後も会員どうしで技術を高め合いながら、地域や学校、行政などと協力して、その輪を広げていきたいです。

活動励む会員の思いは一つ

はたごっこの会員は年齢30代から80代までで、元教師や主婦など顔ぶれはさまざまです。催しでの体験や作品展示などで、その魅力を伝えていこうと始動しましたが、大半の人は結成前の講座で織機に触れたのが初めてでした。一般的に織る作業とは経（たて）糸を織機に並べて張り、その間に緯（よこ）糸を繰り返し通していきます。単純な流れのようですが、その前段で糸を整えたり織機に通したりする作業は熟練者でないと難しいものです。会員の皆さんも吉田さんの指導の下、技術を高めていったものの苦労の連続でした。それでも宿場まつりに各自の作品を出展するため、20メートルもの生地を織ろうと決めた会員たち。織機に数百本の経糸をのせる作業に数日要したり、ときには古い図面を参考に織機の部品を交換したりしました。また、織機が数台しかないため、活動日以外にも作業を進めることも。そんな骨を折る作業でも、皆さんの表情からは笑顔が絶えません。「手間はかかるけど、昔ながらの方法で丁寧に織りあげていくのは楽しいです」

81歳。中央２丁目。平成２年まで40年以上にわたり、機屋をしていた。現在、はたごっこの一員としてほかの会員や体験教室での技術指導に当たる

会員の皆さんのいきいきとした表情頼もしいですね。

はたごっこ
元機屋 吉田 金造（よしだ きんぞう）さん

昭和21年に父が創業した機屋を学生の頃から手伝い、その後家業を継ぎました。よいことも悪いこともいろいろ経験しましたね。平成２年に工場を閉めましたが、まちの伝統産業を子どもたちに伝えたいと、はたごっこ結成前から小学校で体験教室を行ってきました。会員の皆さんはやる気のある人ばかり。楽しみながら活動する様子に、長年織物に携わってきた者として喜びを感じています。

児童たちに優しく指導

～情熱が広がるとき～

地域での体験教室を通して
蕨の織物文化を伝承する
はたごっこの皆さん

機織り体験in中央地区生涯学習フェスティバル

昨年に続いて、同フェスティバル（10月４日～６日）で機織り体験を実施。多くの人が織機に触れ、その感触を楽しみました

小学校の総合的な学習の時間で講師

北小学校の５年生に糸紡ぎや機織りなどの体験に加えて、綿花の育て方も説明。児童たちは興味津々に授業を受けていました

機織り体験in宿場まつり

歴史民俗資料館分館で体験教室だけでなく、会員たちの作品を展示。苦労して作った力作に来館者も見入っています

小学校で綿花の栽培

中央東小学校３年生は綿花の栽培をしています。これは吉田さんが数年前に種を渡したことがきっかけです

ね。そのことを皆さんにも知っていただきたい」と口をそろえます。そう、みんなの思いは一つ。それは蕨の誇れる織物文化を継承し、広く伝えていくことです。

広がる蕨の織物文化への心

はたごっこでは月２回の定例会に加え、結成時から小学校の体験学習に協力しています。まちの産業を学ぶ３年生や文化について考える５年生など、昨年度は６校で講師を務めました。「目を輝かせて機を織る児童の姿は励みになりますね」とほほえみます。そんな光景から機織りに触れてもらう機会を更に広げたいと考えた、はたごっこ。今年度は協働事業提案制度を活用し、市と協働による機織り体験を全小学校で開く予定です。今は教室の準備に奔走中ですが、「活動を通して多くの人と知り合えて楽しいですよ」といきいきとした表情で話す皆さん。そして今後は、「もっと活動の輪を広げて、将来的には会のロゴが入った製品を作りたいですね」と話します。

まちの誇れる伝統を残したいという情熱から生まれた、はたごっこ。その活動はまだ始まったばかりです。しかし、次代に託そうとする姿は織物のまちの未来をつくる新たな一歩となるでしょう。

多くの人にお話を伺うことができた今回の取材。

活動や表現方法はさまざまでしたが共通していたのは、「蕨の織物業の歴史や文化を伝えていきたい」という熱意と真摯な姿勢でした。

そしてその根底にあるのは、まちへの深い愛情だということも。

お会いした皆さんのような人たちの心と心が集い、重なり合うことでまちは更なる輝きを放ちます。

それは織物の経糸と緯糸が交互に組み合わさり、丈夫で美しい布を織り成すように。

かつてのような機を織る音は響かなくても、まちへの誇りは今も脈々と受け継がれています。

そして、未来へとつながる鼓動がしっかりと刻まれています。

聞こえるよ
カタカタ、トントン
カタカタ、トントン

Voice!

難しいけど楽しい

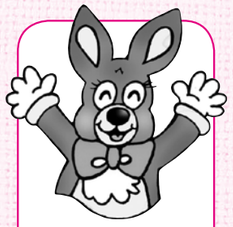
島口 真緒（しまぐち まお）さん
北小学校５年生

機織りのことは、教科書で勉強したことはあったけれど、体験したのは初めてでした。いちばん難しかったのは手と足で扱う織機の使い方。それに布が出来るまでにこんなに時間がかかるとは思いませんでした。昔の人たちの生活も知ることができてよかったです。

体験で育む郷土愛

川島 隆太郎（かわしま りゅうたろう）教諭
北小学校

私たちが日常生活で触れている物の多くは既製品です。その過程や物づくりのたいせつさを蕨の伝統文化である機織りを通して、じかに学べる機会があることはとても幸せです。子どもたちにはこうした貴重な経験から、郷土を愛する心を育んでいってほしいですね。



写真で振り返る わらびこの一年

2013

12月を迎え、今年も残すところ1か月となりました。そこで14、15ページでは、蕨の市政や催しなど、一年の出来事を写真とともに振り返ります。

①

②

③

④

⑤

⑦

⑥

⑧

⑨

⑪

⑩

⑮

⑫

⑬

⑭

⑯

1月	
13日	消防出初式
14日	蕨市成年式 ①
26日	文化財防火デー（三学院で消防訓練）

2月	
7日	交通死亡事故ゼロ市町村表彰
12日	蕨市いじめのない明るい学校づくり宣言制定 ②
16日	イクメン・カジメンフォトコンテスト表彰式
23日	消費生活展（～24日）
26日	戸田市及び蕨戸田衛生センター組合と共同でごみ処理基本計画を策定
	わらびりんごの苗木31本を公共施設に植樹
3日	歴史民俗資料館特別展「表情人形 山本光子―風のまにまに―」（～4月29日）
15日	環境基本計画策定
23日	桜のまち南町文化展（～24日）
29日	蕨市水道ビジョン策定
	わらび健康アップ計画策定
30日	けやき文化賞特別賞 ウルリッヒ・レンツ氏 ③
1日	蕨市市民参画と協働を推進する条例施行
	民間認可保育園アートチャイルドケア蕨開園 ④
	重度心身障害者医療費の窓口払い廃止の対象者拡大
	ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンなど、定期接種を拡充
13日	市長タウンミーティング開催（～20日）
18日	わらびりんごの苗木を群馬県片品村へ寄贈 ⑤
23日	蕨市立図書館が文部科学大臣表彰受賞
27日	わらび学校土曜塾開講（東小・西小・南小学校区） ⑥
29日	蕨駅開業120周年記念事業開始
	苗木市・藤まつり ⑦
10日	小・中学校体育館耐震補強等工事着工（北小・中央小・中央東小・一中・東中）※写真は1月31日に工事が完了した南小 ⑧
	各事業所・団体と災害時における協定を締結（10日・パルシステム埼玉 8月22日・伊藤園 9月6日・JR東日本大宮支社 11月6日・埼玉土地家屋調査士会 ⑮）
19日	子育て支援フェスタ・こどもまつり
23日	「スケアード・ストレイト教育技法」による交通安全教室実施（～7月2日）
29日	わらびチャレンジデー
2日	クリーンわらび市民運動
3日	大人の風しん予防接種一部公費助成

6月	
9日	総合社会福祉センターまつり
13日	公民館耐震診断実施（東・西・南公民館）
22日	蕨市災害図上訓練 ⑨
28日	学校図書館教育支援員（3人）の配置
1日	さくら保育園耐震補強設計委託
	「クールオアシス蕨」実施（～9月30日）

7月	
2日	南小学校校庭改修工事着工
11日	協働事業提案制度審査会
13日	あさがお&ほおずき市（～14日）
	蕨駅開業120周年記念事業「わらってつまつり」（～15日） ⑩
	蕨市花いっぱい運動推進功労者表彰
24日	蕨民俗資料館平和祈念展「戦争と子どもたち」（～9月29日）
27日	市民活動ネットワークフォーラム
28日	機まつり（～5日） ⑪

8月	
2日	蕨市民水泳大会
4日	蕨市総合防災演習（中央小学校）※今年はわらびスチューデンツサポーター（WSS）が初参加 ⑫
25日	生涯学習フェスティバル（～11月10日）
6日	※写真は下蕨地区 ⑬

9月	
8日	合宿通学（～10月5日）
14日	お年寄りを敬う会
1日	中央第一地区の新たなまちづくり開始
6日	蕨市文化祭（～11月24日）
20日	わらび健康まつり・歯ッピーわらび ⑭
21日	蕨市の行政運営に係る長期計画審議会（4月22日～10月21日 全7回）より市長に蕨市将来構想についての答申提出
26日	歴史民俗資料館「昆虫標本―美しいチョウチョやカブトたち―」展（～12月15日）
27日	ハロウィンワールド in WARABI

10月	
2日	中仙道蕨宿「光と音のページェント」（～12月1日） ⑯
3日	けやき文化賞・自治功労者表彰式
	宿場まつり
13日	蕨市公募美術展覧会（～17日）
16日	蕨市アウトメディア推進大会
22日	金婚祝式
27日	イクメン・料理男子フォトコンテスト表彰式

11月	
1日	市議会に蕨市将来構想を提案
	クリーンわらび市民運動
	蕨駅開業120周年記念事業クロージングイルミネーション点灯式

12月(予定)	

リポート　そこが知りたい

〈95〉

市民意識調査の結果まとまる

市民の皆さんからご意見をお聞きし、これからの市政に役立てていこうと、毎年、市民意識調査を実施しています。この度、その結果がまとまりましたので、全30の調査項目のうち、「まちへの愛着」や「永住意識」など、主な項目についてご紹介します。

ここ5年で最高水準 7割以上が蕨に愛着

8月に実施した今年度の市民意識調査では、市内在住の20歳以上の男女1000人を対象に調査票を送付したところ、355人からご回答をいただきました（右下囲み）。

調査項目は全部で30項目です。その結果の主な内容は、次のとおりとなりました。

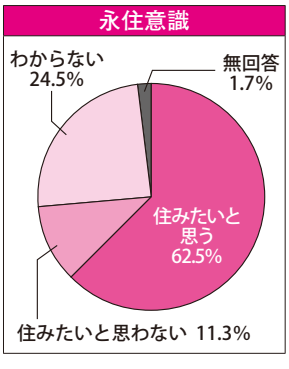
まず、左下囲みのとおり、「まちへの愛着」について、「感じている」と答えた人は72・1％と、ここ5年間の調査のなかで、最も高い割合となりました。愛着を感じる理由としては、「買い物など生活に便利だから」が52％、「自然災害、都市災害が少なく安全だから」が35・5％と続いています。

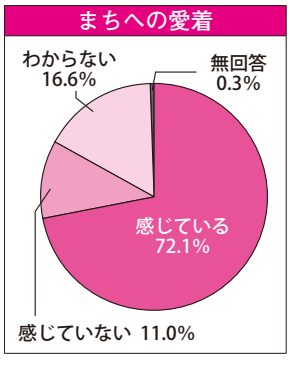
また、「永住意識」について、これからも「住みたいと思う」と回答した人が62・5％に上ったことなどから、多くの皆さんが、蕨に愛着と満足を感じながら暮らしていることがうかがえます。

満足度が高い施策は子育てや活動の支援

次に、今後の市政の重点施策について、34の項目を「重要度」と「満足度」の両面から伺ったところ、「重要度」では、1位が「防災・消防・救急体制」、2位が「防犯対策」、3位が「市立病院の充実」となり、安全安心や健康に関する分野に関心が集まっていることが分かります。また、「満足度」では、1位が「子育て支援」、2位が「ボランティア・NPO・市民活動の支援」、3位が「コミュニティバスなどの公共交通の充実」でした。「子育て支援」は、5年前の調査では15位でしたが、毎年順位を上げ、今回初めて1位となりました。

なお、今回の調査では、検討中の「公共スポーツ施設のインターネット予約の導入」について伺ったところ、半数を超える55・2％が「導入したほうがよい」と回答しました。





重点施策

満足度		重要度	
1位	子育て支援	1位	防災・消防・救急体制
2位	ボランティア・NPO・市民活動の支援	2位	防犯対策
3位	コミュニティバスなどの公共交通の充実	3位	市立病院の充実
4位	防災・消防・救急体制	4位	学校教育の充実
5位	スポーツ・レクリエーション活動の推進	5位	交通安全対策

平成25年度市民意識調査

調査：平成25年8月
主な調査内容：◎まちへの愛着　◎永住意識　◎まちづくり　◎重点施策　など全30項目
対象：市内在住の20歳以上の男女1,000人（無作為抽出）
回収率：35.5％（355人）

市民の皆さんの声がまちづくりの原点に

市政運営を進める上で、時代とともに移り変わっていく住民ニーズを的確に把握することは欠かせません。市では、今回の調査結果を参考に、住み続けたいと思えるまちづくりに向けて、各施策の更なる充実を図っていこうと考えています。

なお、今回の調査結果は、市役所1階市民活動推進室や各公民館、図書館のほか、市ホームページでも御覧いただけます。

問い合わせ＝政策企画室（☎433・7698）

蕨いまむかし －320－

南町1丁目の西仲公園付近

語る人

半澤義和（はんざわよしかず）さん
南町2丁目・83歳

昔の写真は、昭和34年に南町1丁目3番地付近から京浜東北線の線路を望んだものです。当時この辺りは数件の農家があった程度で、田畑が広がる湿地帯でした。大雨が降ると水が引くのが遅く、たまり水にいかだを浮かべて遊ぶ子どもたちの姿を目にしたものです。奥に写っているのは貨物を引く汽車です。この頃は線路に柵はなく、目の前で黒煙を上げて走るその姿は壮観でした。また、蕨駅から西川口駅にかけては、大きな野立て看板が線路に沿うようにしてあぜ道に並んでいました。屋敷林（写真左奥）の右側に、その骨組みが確認

まちの話題

仮装で深める地域交流

毎年10月は中央地区がハロウィン一色になります。今年も26日に「親子でハロウィンを楽しもう」、27日には「ハロウィンワールド in WARABI」が開催され、お化けや魔女にふんした皆さんがまちをパレード。延べ2300人が楽しみながら触れ合いを深めました。

鍔屋氏が文化賞を受賞

11月3日、市民会館で、市の文化功労者に贈られる「けやき文化賞」の表彰式が開かれました。受賞者の鍔屋正幸さん（中央在住）は青少年育成蕨市民会議会長を長年にわたって務め、「第1回わらび郷土かるた大会」を開催するなど、地域文化の向上に尽力されています。

真心伝わる温かおそば

蕨市社会福祉協議会の「善意のおそばプレゼント」が11月14日、松原会館で開かれました。市内そば組合加盟店や社協錦町支部などのご協力の下、60歳以上の人にそばをふるまうこの催し。訪れた270人は、てんぷらが入ったあつあつのそばで身も心も温まりました。

情報の扱い方学ぶ催し

市では、子どもたちがメディアに触れる時間を減らそうと、取り組みを進めています。11月16日には、市民体育館で「第3回蕨市アウトメディア推進大会」を開催。講演会や実践報告などが行われ、訪れた152人は、アウトメディアへの関心を大いに高めていました。

いじめ防止へ意見交換

11月21日、中央公民館で「蕨市いじめのない明るい学校づくり会議」が開かれました。参加した市内小・中学校10校の児童や生徒たちは各校によるいじめ防止への取り組みの成果発表や、今後に向けた提案などを行い、いじめのない学校づくりへの決意を新たにしました。

情報ダイヤル

掲載は無料です

問秘書広報課（☎433・7703）

〔見にきませんか〕

▶**yuukiHipHop　5周年記念イベント**　22日　午後4時　市民会館　ダンス発表、バルーンアートなど　無料＜清水・☎090・1703・3588＞

〔仲間になりませんか〕

▶**ストレッチとウォーキングの男だけの会**　火・木曜日　午前7時半　城址公園　寝たきり防止と認知症予防　60歳以上＜平田・☎090・3131・9399＞

▶**南囲碁クラブ**　火曜日　午前9時半　南公民館　無料＜井上・☎442・0259＞

▶**蕨北町サッカースポーツ少年団**　土・日曜日・祝日　北小学校　月1,500～2,000円（未就学児は年間1,000円）　年中～小学生＜小泉・☎090・4948・5936＞

▶**楊名時**（太極拳）　土曜日　午後2時半　蕨駅東口駅前ラ・セーヌビル　月4,500円＜浦島・☎224・5915＞

▶**土曜ダンス教室**　月2回土曜日　午後1時　中央公民館　月2,200円　初心者歓迎＜原・☎444・5754＞

▶**蕨ミニバスケットボールクラブ**　月・木曜日＝午後5時　土曜日＝午前9時　市民体育館ほか　月1,500円　小学生＜橋本・☎090・5415・9170＞

▶**児童合唱団「野うさぎ」**　土曜日　午後4時15分　南公民館　月3,500円　幼児～中学生＜近藤・☎441・5659＞

〔参加しませんか〕

▶**日帰り旅倶楽部**　横浜開港の歴史にふれるレトロ横浜　2月8日　1,000円＜岩本・☎090・3431・4295＞

▶**ダンスパーティー**　4日・11日・25日　午後1時　文化ホールくるる　499円＜犬塚・☎441・7373＞

▶**蕨ハワイアンフラフェスティバル**　平成26年7月27日　市内で活動しているサークル　1曲1,000円＜芝崎・☎090・9963・3846＞

▶**蕨中東カンフークラブ**　7日・14日　午後1時15分　市民体育館　女性のためのカンフーフィットネス　無料＜高橋・☎080・6690・2121＞

〔ご相談ください〕

▶**蕨断酒会**（酒害相談）　3日＝中央公民館　11日＝南公民館　19日＝旭町公民館　午後7時＜岡田・☎441・3172＞

できます。東京へ向かう際、列車の車窓からこの田園風景を眺めるのも私の楽しみの一つでした。

今の写真は現在の様子です。昭和35年から始まった区画整理事業に伴い、昭和45年に整備された西仲公園は、地域の憩いの場として定着しています。

■各義援金へのお礼／伊豆大島等台風26号災害＝54,902円　平成25年滋賀県台風18号災害・鹿児島県奄美南部→

小さな悩みでも一人で抱え込まないで「心配ごと相談」へ

蕨市社会福祉協議会では、民生委員が相談員となり、日常生活の悩みごとについて、相談や助言、解決への手助けを行う「心配ごと相談」事業を実施しています。今年度から市内全５地区で順次行われている同事業。ぜひお気軽にご利用ください。

親と子のニュースの小窓

開設は原則第1火曜日（午後1時～3時）

地域の頼れる相談所より利用しやすく

お母さん　民生委員さんだわ、お出かけかしら。

ワラビ　民生委員さん？

お母さん　私たちの日常生活に関する相談に乗り、公共サービスの案内や関係機関との間に入って、問題解決のお手伝いをしてくれる人たちよ。皆さん、とても頼りになるの。

ワラビ　そうなんだ。

お母さん　ほかにも高齢者のお宅への訪問をはじめ、学校や福祉団体との交流などを通じて地域の実情を把握し、地域福祉の向上にも努めているわ。

ワラビ　みんなを見守ってくれているんだね。

民生委員　こんにちは。

ワラビ　これからお出かけですか？

民生委員　今日は、「心配ごと相談」の日なのよ。

ワラビ　なにそれ～。

民生委員　市の社会福祉協議会と民生委員が協働で取り組んでいる事業で長年、行われているのよ。

お母さん　毎月、『広報蕨』お知らせ版の各種相談（今月は5ページ）にも日程が掲載されているわね。

民生委員　原則毎月第1火曜日の開設で以前は松原会館のみでしたが、多くの人に利用してもらおうと、今年度から公民館などを使って市内全地区で順次、実施しています。

公的機関とも連携図り解決への橋渡し

ワラビ　どんな相談ができるのかな。

民生委員　生活していると、小さなことから大きなことまで、いろいろな悩みに直面しますよね。

お母さん　介護や子育て、家庭のこと…。「誰に相談すればよいか」、「どこに相談すればよいか」など、一人で悩みを抱え込んでいる人は多いと思います。

民生委員　そうですね。「心配ごと相談」は、私たち民生委員が相談員となって、そんな悩みにじっくり耳を傾けています。

お母さん　人に打ち明けると、心がすっと晴れることもありますからね。

ワラビ　そういえば、最近、隣のおじいさんの表情が暗い気がする…。

お母さん　相談は誰でも受けられるのかしら。

民生委員　もちろんです。それに費用は無料。秘密は厳守します。

ワラビ　民生委員さんなら安心だね。

民生委員　また、内容に応じて、法律や行政など市の専門的な相談窓口への橋渡しも行っています。

お母さん　問題解決への糸口にもなりそうだわ。

民生委員　そうですね。今月は10日に北町公民館で開かれますので、お気軽にお越しください。

ワラビ　うん、お隣さんにも勧めてみる！

詳細＝蕨市社会福祉協議会（☎443・6051）

どんな悩みにも真剣に耳を傾けてくれる相談員さん

ほっと・エッセイ 66

「カリン」から広がる潤いあるまちづくり

市長　頼髙英雄

市内には、南町のカリン通りをはじめ、カリンの木が街路樹として植えられている場所が幾つかあります。秋を迎えるとカリンの木々に実がなりますが、場所によっては、落ちた実を車がはね飛ばし、危ないこともありました。そこで、平成21年度からカリンの実を市で収穫し、市役所や公民館などで希望する市民に配布することにしました。今年は600個以上が収穫され、先日、配布したところ、2日間で、あっという間になくなりました。カリン酒を造るなど、皆さん思い思いの活用法があるそうです。

ご存じのとおり、蕨市は、市全域が市街地の人口密度日本一のまちですが、それだけに、緑や花は市民生活に安らぎを与えてくれます。そこで、現在、リサイクルフラワーセンターの花を活用しての花いっぱい運動を展開しており、今年度から表彰式も創設されました。わらびりんごによるまちづくりも進められており、錦町には、わらびりんご公園に続き、わらびりんご通りが整備される予定です。

これからも、緑や花いっぱいの優しさと潤いあるまちづくりを推進していきたいと思います。

市民と市長の面会日

面会日は毎月第1木曜日。今月は5日。ただし、1月は9日です。時間は午後1時～5時を予定しています。

ご希望のかたは秘書広報課（☎433・7701）へ

わが家のアイドル

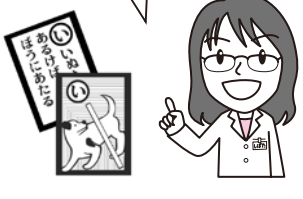
瑛涼（えいすけ）ちゃん（1歳4か月）

北川（きたがわ）博朗（ひろあき）さん　美都紀（みづき）さんの長男

北町2丁目　－500－

「瑛涼は9歳年上の姉・萌笑（もえみ）が大好きです。萌笑が勉強をしているときでも、そばを離れずにいるんですよ。そんな瑛涼が最近夢中になっているのが、萌笑といっしょにダンスを踊ることです。初めは見よう見まねだったダンスも、足を上げたり手を振ったりと、自分なりに踊れるようになってきました。今では、最後に天を指す決めポーズもばっちりです。瑛涼には、いつも元気で優しい子に育ってほしいですね」と話す、母親の美都紀さん。

かるた DE ヘルスケア



蕨市立病院　柴田優子（しばたゆうこ）医師

痛風

高尿酸血症が続いた結果、結晶ができ関節に炎症を起こし痛みが出ると痛風といいます。痛風は生活習慣病の一つです。肥満、糖尿病、動脈硬化、心疾患と密接に関与していることが分かっており、それらを考慮した管理が重要となります。食品中のプリン体量だけでなく、糖分やアルコールの量が尿酸値を加減する肝になります。治療の基本は食事療法や運動療法などの生活習慣の改善であり、病的な老化や命に関わる生活習慣病の予防とともに、血清尿酸値の低下も期待することができます。

柴田医師の健康増進外来は木曜日午後。詳細は市立病院ホームページでご確認を

子どもクラブ

仕事のたいせつさ学んだよ

職業体験

11月9日、中央公民館で、蕨商工会議所青年部主催の職業体験が開かれ、小学生100人が参加しました。10のブースのうち、靴屋さんで学んだのは革靴の磨き方。「クリームはどれくらい塗ればいいの」と、靴の持ち方やクリームの塗り方にてこずっていた子どもたちも、お店の人に教わりながら上手に磨けるようになりました。「家でお父さんのもやってみようかな」と、ぴかぴかになった靴に負けない笑顔を輝かせる子どもたち。働くことの楽しさや大変さを学びながら心も磨くことができたようですね。

■ボートレース戸田／開催日程＝1日・4日～9日・12日～23日・28日～31日　詳細＝戸田競艇組合（☎441・7711）

広報蕨　七五〇号　平成二十五年十二月一日発行　毎月一回発行　印刷・㈱秀飯舎

輝いてます ひと

県中学新人体育大会砲丸投げ　優勝

松下（まつした） ちひろ さん

視線の先に晴れ舞台を思い浮かべて

全国目指し誰よりも遠くへ

10月10日に開催された埼玉県中学新人体育大会。女子砲丸投げで優勝に輝いたのは、第一中学校陸上部の松下ちひろさん（14歳・中央7丁目）です。ただ一人、12メートルを超える投てきを見せ、栄冠を勝ち取りました。

中学に入学すると同時に、陸上部へ入部した松下さん。短距離走の練習に加え、「松下の長身は強い武器になる」と、顧問の先生の勧めで、取り組んでいたのが砲丸投げです。初めは「ほんとうは走るのが好きなのに」。心のどこかでそんな思いも抱いていました。

しかし、中学1年の秋に思いは変わります。同大会で、4位に入賞。このとき敗れた3位の選手との差が僅か1センチだったのです。「たった1センチが大きく感じた。次は表彰台に上る」と、強い悔しさを感じるほどに、砲丸投げへの思いを抱いていることに気づきました。

その後、県の強化選手に選ばれ、指導者から「投てき中に力み過ぎる癖がある。自然体で投げて」と、指導を受けるなど、さまざまな教えを吸収していくとともに、自身でも考え、呼吸法などを意識した密度の濃い練習を心がけました。更には、足の運びから手の突き出しまで、一からフォームを改造し、2年生の夏が終わる頃には、「筋力も付き、フォームも安定した。成長したな」と、顧問の先生から太鼓判を押されるほどになりました。

こうして迎えた2度目の埼玉県中学新人体育大会。これまでの努力と思いを乗せた砲丸は自己ベスト12メートル11センチの記録を残し、念願の表彰台の頂に立ちました。「次は全国大会で表彰台へ」と、新たな目標を掲げる松下さん。まずは来年6月にある県大会で、全国大会進出の標準記録12メートル50センチ達成を目指しています。「誰よりも遠くへ」と、2・721キロの砲丸に思いを乗せて、松下さんは日々、挑戦を続けます。

紹介します！ 皆さんの市民活動

キラリ!! みんなの力 ～WICA（ワイカ）～

得た経験をまちに還元 広げたい国際交流の輪

メッセージ

荻原（おぎはら） 春菜（はるな） 代表

蕨・インターナショナル・カルチャー・アソシエーション（以下WICA）は、蕨の青少年が海外の同世代の仲間や受け入れ家庭と交流する「国際青少年キャンプ」の経験者で組織されたボランティア団体です。平成20年に発足し、現在は中学生から大学生までの27人が在籍しています。

活動の軸となっているのは、市の国際交流事業への協力です。語学研修などを通して、国際青少年キャンプに参加する後輩たちを応援しています。最近では、生涯学習事業に参加してお手伝いをさせていただいたり、NPO団体とともに被災地支援に携わったりと、活動の幅が広がってきました。また、毎月第3日曜日の内部研修のほか、誕生日会やクリスマス会といったイベントの開催など、楽しみながら仲間どうしの交流も深めています。

WICAにとって次の大きな活動は、今月15日の「みんなの広場」（お知らせ版5ページ）です。国籍を越えた交流を深めるこの催しで、私たちはゲームコーナーの企画・運営を担当します。皆さん気軽に遊びにきてください。

中央公民館には活動の成果を掲示しています

このコラムでは、わらびネットワークステーション（☎445・7256）の市民活動登録団体を紹介しています。

広報に載っている写真を希望者に差し上げます　秘書広報課広報広聴係までご連絡ください